

「まるごと吉野川 “魅力再発見”講座

古くから吉野川との関わりによって育まれてきた阿波の歴史・文化・環境をテーマに
さまざまな角度から吉野川について学んでもらおうという「まるごと吉野川“魅力再発見”講座」。
講演会、現地見学会など、今年度も3つの講座を開催しました。

講演会

「コウノトリが棲む地域づくり」

吉野川流域における希少鳥類の保護と
地域活性化の取り組み

2023
3/11



仲睦まじい鳴門板東ペアの「ゆうひ」(左)と「あさひ」(右) ※

「コウノトリひな、7年連続誕生か」—3月12日、地元新聞が報じた。NPO法人とくしまコウノトリ基金(熊谷幸三理事長)によると、3月12日昼に親鳥によるひなへの給餌(吐き出し行動)が見られたため、孵化したものと推定。鳴門板東ペアのひなの誕生は7年連続で、今シーズン、全国で最も早い孵化となりました。

この朗報の前日・11日に、とくしまコウノトリ基金から事務局長の柴折史昭(しばおりふみあき)さんを講師に迎え、「まる吉」講座を開催。コウノトリの保護と地域活性化の取り組みについてお話いただきました。



昨年生まれた3羽の幼鳥。2022年6月15日のお昼前、「なみ」の巣立ちの瞬間を観察カメラがとらえました! 午後に2羽も巣立ちました ※

昔は全国に生息していたというコウノトリですが、昭和46年(1971)に野生下では絶滅。人工繁殖・飼育した個体が放鳥され、それが兵庫県豊岡市で野外繁殖して、少しずつ個体数が増えてきました。平成27年(2015)春、鳴門に飛来した2羽も豊岡生まれ。2羽はやがて夫婦となり、平成29年(2017)に初めてひなを育て上げました。豊岡市以外では初の野外繁殖という快挙でした。



徳島希少鳥類研究会事務局長も務める柴折さん。貴重な画像、資料とともにお話いただきました



徳島県教育会館で開催。オンライン配信も行い、現地・Web合わせて当日は30人が参加。後日受講も別途実施



整備したビオトープでエサをついばむコウノトリ。県外からも多くのコウノトリが飛来しています ※



巣づくりワークショップのもよう。コウノトリになつた気持ちで巣作りを体験! ※

何がそんなにコウノトリをひきつけるのか? それは「レンコン畑では?」と柴折さんは分析しています。ほぼ一年中、コウノトリが採餌しやすい浅い湛水状態を保ち、また、減農薬などの取り組みで水生生物が豊かに生息するレンコン畑は、彼らにとって最高の餌場なのです。「コウノトリが選んだレンコン畑」—最高のキャッチコピーです。今後は、レンコン、ビオトープ米、日本酒など、コウノトリ・ブランドの商品開発にも力を入れ、経済の活性化につなげていきたいと考えています。

「コウノトリは豊かな自然や農業の象徴、そして吉野川の恵みのひとつ。私達の活動にもぜひ興味を持ってほしい」と語りかけました。

※の4点の写真は、NPO法人 とくしまコウノトリ基金の提供です

INFORMATION

NPO法人 とくしまコウノトリ基金
TEL 090-2825-6721
<https://www.t-stork.jp>

